

【所信】 誰しものが成長できる機会の提供

【わんぱく相撲実行委員会委員長】 新倉 弘泰

私は過去に水泳インストラクターとして500人以上の子供と接し、成人するまでの成長を見届けられる貴重な体験をさせていただきました。保護者に言われるがまま習う子、純粹に水泳を楽しみたい子、過去の自分に打ち勝とうと励む子、様々な子供と接し、無意識のうちに互いを刺激し合えた経験は、私にとってはかけがえのない財産です。わんぱく相撲実行委員会委員長の担いを通じ、新たな世代と接する機会を得られたことに私は大きな喜びを感じています。

古来、豊作の儀として執り行われていた相撲はやがて娯楽となり、「国技」と呼ばれるようになりました。神事であった「相撲」を通して、勝敗にこだわらず、勝ち得ても感情を表に出さず、最後まで全力で向き合った相手へ敬意を払うという「礼節」を子供たちへ伝えたいです。そして、結果に左右されず、全力で物事に取り組むことの素晴らしさを伝えることで、子供にとって意義のある事業になると私は思います。

また、大人は「礼節」を子供に伝えることでもう一度「礼節」と向き合い、活力に満ちた子供と接することで様々な刺激を得られると思います。ただ接するのではなく、子供の手本となれるよう立ち振る舞うことで、大人として一歩成長できる機会になると私は思います。1909年6月2日、初の常設相撲場となる両国国技館の落成、並びに行司の烏帽子垂直着用、東西制の導入などによる、相撲の近代スポーツ化が図られました。その115年の節目となる6月2日に本戦を予定していることも、何か一つの小さなご縁であると思います。

ご協力して頂ける皆様と共に、大人にも子供にも成長出来る機会であり、各々がやることの意義を感じることができる事業となるよう、井上副理事長、河野室長の下、わんぱく相撲実行委員会が一丸となって取り組んで参ります。